

II. 事業総括

改訂委員会委員長 小川 朝生
国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、2011-2013 年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等によりその周知を進めた。

しかし、2016 年に総務省ががん対策を評価したところ、2015 年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況に関して、17 都道府県、51 がん診療連携拠点病院を対象に調査をした結果、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が確認された（平成 28 年 9 月総務省「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」）。

この報告を受けて、がん対策推進基本計画（第 3 期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

続いて、第 4 期がん対策推進基本計画においては、ピア・サポーターのより一層の活用や、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）とピア・サポーターとの連携体制の構築が掲げられた。

本事業では実施要綱に従い、

(1) 医療・福祉関係者などの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したプログラムを使用した研修を実施する。また、地域ごとにニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続の可能性等の検証を行うとともに、必要に応じてプログラム等の改善を行う

(2) 委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援センターや患者サロンの開催等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する。また、都道府県がピア・サポーターの育成を目的とした研修を実施する際、都道府県に対する相談支援を実施する

(3) 情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用することを検討した。

B. 経過

改訂委員会を設置し、課題整理を行い、以下の 4 点を検討・実施した。

- ピア・サポーター養成研修会の開催
- 各都道府県におけるニーズの把握ならびにピア・サポートに関する取組みの実態把握
- がん診療連携拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
- 情報提供等を行うホームページの運用

1. ピア・サポーター養成研修会の開催

本事業で改訂したピア・サポーター養成研修プログラムに基づく研修会を各都道府県で広げていくことを目標としている。しかし、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行のため、対面形式での養成研修会の開催が困難な状況が続いた。そのため、昨年度にオンライン形式を取り入れた短縮版を開発し、動画等の資料を活用した養成研修会やフォローアップ研修会等を実施した。

(1) 都道府県で開催するピア・サポーター養成研修会開催指針の作成

自治体が初めてピア・サポーター養成に取り組む際の目安を示すことを目的に、養成研修会の開催指針を作成した。

(2) ピア・サポーター養成テキストの改訂

第 4 期がん対策推進基本計画が策定されたことを受けて、既存のピア・サポーター養成テキストの「ピア・サポート活動を広く推進するために行政と医療者ができること」、「具体的な事例」の章に新基本計画の内容を反映させた。

(3) 各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の実践

全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当 WG からプログラムの提案、開催支援を行った。

1) 埼玉県 ピア・サポーター養成研修会

①2023 年 8 月 15 日（火）、同月 26 日（土） 埼玉県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。ピア養成研修ワーキンググループ（以下 WG）にて、講義・ロールプ

レイの進行を担当した。ピア・サポーター13名、拠点病院等の医療従事者3名が参加した。

②2023年11月21日(火)、同月25日(土)同じく、WGにて講義・ロールプレイの進行を担当した。ピア・サポーター19名、拠点病院等の医療従事者5名が参加した。

2) 香川県 ピア・サポーター養成研修会

2023年10月29日(日) 香川県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。WGは講義・ロールプレイの進行を担当した。ピア・サポーター12名、医療従事者5名が参加した。

3) 長崎県 ピア・サポーター養成研修・フォローアップ研修会

2023年12月9日(土) 長崎県内のピア・サポーターへの養成研修、フォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。ピア・サポーター13名、医療従事者9名が参加した。

4) 神奈川県 ピア・サポーター養成研修会

2024年3月9日(土)、10日(日)、神奈川県内のピア・サポーターへの養成研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

5) 兵庫県 フォローアップ研修会

2023年12月16日(土) 兵庫県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイをWEB形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイを担当した。

6) 福岡県 フォローアップ研修会

2024年1月25日(木) 福岡県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義を担当した。

7) 群馬県 フォローアップ研修会

2024年3月8日(金) 群馬県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイを担当した。

8) 栃木県 フォローアップ研修会

2024年3月16日(土) 栃木県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

9) 茨城県 フォローアップ研修会

2024年3月22日(金) 茨城県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレ

イを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

10) 埼玉県 フォローアップ研修会

2024年3月23日(土) 埼玉県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義やグループワークを担当した。

11) 徳島県 フォローアップ研修会

2024年3月24日(日) 徳島県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

12) 香川県 フォローアップ研修会

2024年3月27日(水) 香川県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

2. ニーズ把握及び各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みの実態把握

(1) ニーズ把握・現状評価及び地域での取組みの持続性の可能性等の検討

各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。2023年5月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。

今年度は8県に対して都道府県担当者と改訂委員会委員等が、各県の取組みの現状ならびに課題に関しての意見交換を対面またはオンラインにて行った(【表1】p.8参照)。同じく3県に対して、ピア・サポートに関連する相談対応・情報提供を事務局が行った。

また、行政と拠点病院等の医療従事者を対象としたピア・サポートに関する研修会を1県で開催するのを支援した。(【表2】p.8参照)。

研修テキスト並びにDVDを、16都道府県、地域統括支援センター8箇所に対して送付した。

(3) ピア・サポートに関するニーズ把握・各都道府県がん対策基本計画での検討状況の把握

各都道府県におけるピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握し、今後のピア・サポートの支援の拡充に活かすことを目的に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課(現:健康・生活衛生局)の協力を得て、各都道府県の担当部署に、現状調査を実施し、46都道府県より回答を得た。今回は、第4期がん対策推進基本計画策定直後であることから、各都道府県でのがん対策推進計画でピア・サ

II. 事業総括

ポートに関する目標設定やロジックモデルの検討状況、都道府県がん診療連携協議会等でのピア・サポートに関する検討状況の把握を目指した。

その結果、都道府県がん対策推進計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは 31 都道府県(66.0%)で、ロジックモデルをもとにした数値目標を検討している都道府県は 13 都道府県(27.7%)であった。

都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは 24 都道府県(51.1%)であった。また、ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 34 都道府県のうち、養成研修の内容を拠点病院等と定期的に検討する機会を設定しているのは 15 都道府県(44.1%)であった。

拠点病院等内の患者サロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは 25 都道府県(53.2%)であった。

ピア・サポーター養成研修会が定期的で開催されているのは 27 都道府県(57.4%)であった。

ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 34 都道府県のうち、養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは 24 都道府県(70.6%)、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは 19 都道府県(55.9%)であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは 20 都道府県(58.9%)であった。

フォローアップ研修を定期的で開催しているのは 22 都道府県(64.7%)、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは 19 都道府県(55.9%)であった。

ピア・サポートの養成・活用には、行政と医療機関との密な連携のもとに、目標の設定と事業の遂行が求められる。しかし、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は、第 4 期がん対策推進基本計画の策定後でも全ての都道府県には行き渡っていなかった。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

3. 拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施

本事業では、医療機関ごとに、それぞれのリソースを踏まえ、今後ピア・サポーターが安心して活動に携わることができることを目的に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」プログラムを開発してきた。

がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備す

るためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2 回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目標に活動した。

本年度は、2023 年 11 月 3 日(仙台とオンライン)と 2024 年 2 月 10 日(福岡とオンライン)の 2 回開催し、それぞれ 90 名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。事前登録者は、11 月 60 名、2 月 45 名であった。講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

2020 年度より合計 7 回開催し、482 名が修了した。開催を重ねるにつれ、レベル I の参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。

今後もサポートグループ等の活動を体験したことのない参加者の割合が多くなることから、ピア・サポートの実際の場面を示すことを意図した動画を作成し、プログラムに組み込むこととした。本動画は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏まえ、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割や情緒的サポートの基本的な姿勢を示すこととした。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。

全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

4. 「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」修了生を対象としたフォローアップ研修会の実施

2020 年度から 2022 年度に開催した「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」の修了者を

対象に、フォローアップ研修会を実施した。2023年11月23日にハイブリッド開催し、29名が修了した。プログラムは4時間で、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成した。事例検討では、サポートグループにおいて生じる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合った。

5. 情報提供等を行うホームページの運用

情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト等の公開や、各種研修会、委員会や各ワーキンググループ活動の紹介を行った。

- ・ 「ピア・サポーター養成テキスト 2020年度版」「がんサポートプログラム企画の手引き 2020年度版」「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」等の研修資料の公開
- ・ 平成30年度、令和元年度、令和2、3、4年度の事業報告書(PDF)の公開
- ・ 2023年11月3日、2024年2月10日実施「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」、2023年11月23日実施「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の研修案内、申込ページの設置
- ・ 各会議、意見交換会、研修会等の活動紹介
- ・ 各種問い合わせへの対応

C. 考察

第4期がん対策推進基本計画に基づき、各都道府県に対するピア・サポート養成と担当者との意見交換、拠点病院等に対してはサポートグループを開催するための研修会を開催した。また実施要綱に沿って、ピア・サポートに関する各都道府県の実態やがん対策基本計画の検討状況の把握を行った。上記活動を通して、わが国のがん医療において、ピア・サポートを推進する上で以下の取組みが求められる。

1. 都道府県がん診療連携協議会の積極的な関与の必要性

ピア・サポートは患者サロン等拠点病院内で活動することが想定されており、その養成と活用にあたり行政と医療従事者とが協働して進める必要がある。しかし、

- ① 都道府県のがん対策基本計画の中でピア・サポートに関する目標が設定されている都道府県は第4期がん対策推進基本計画策定後に増加したもののまだ7割程度であること
- ② 都道府県の中で行政と医療従事者がピア・サポートに関して検討する場を持っている都道府県も増加しつつあるもまだ半数程度であること

が明らかとなった。

第4期がん対策推進基本計画においては、都道府県が設置するがん対策推進協議会の体制を強化し、拠点病院等の役割分担や連携体制の構築等を新たな要件として盛り込んでいる。ピア・サポートを養成し活用するためには、行政と拠点病院等

が協働して進める必要があることから、がん対策推進協議会が積極的に関与し、拠点病院等への役割の提示やピア・サポートに関する検討会の設置など推進することが重要である。

2. ピア・サポートを護ることの重要性

拠点病院等の整備指針には、「体験を語り合う場」の設置が義務づけられている。「体験を語り合う場」については、その検討の経緯まで踏まえないとセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると解釈することが難しいため、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を周知が求められる。

加えて、今後ピア・サポーターの活動の場が広がるにつれて、ピア・サポーターが相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピア・サポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報扱い等についても確認する必要がある。事前の教育・研修は必須である。あわせて、医療従事者もその課題を認識し、活動計画の時点から想定した準備が求められる。その点で、石川県のように、拠点病院等が養成研修に推薦する条件として、自施設で体験者の心身をフォローすることを明記した取り組みは先駆的であり、示唆に富む。

3. 新型コロナウイルス感染症流行下でのピア・サポート活動の推進

新型コロナウイルス感染症流行が長期化する中で、がん患者・家族への心理社会的な負担は大きく増大している。現在、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上5類に移行したものの、拠点病院等では、感染予防の観点から、院内でのピア・サポート活動に制限が続けられ、多くの拠点病院等では再開の様子見している状況である。たしかに感染予防についての配慮は必要である一方、心理社会的支援が滞っている状態が長期化することによる患者・家族の不利益にも対応する必要がある。

その中で、一部の拠点病院等や都道府県において、オンラインでのピア・サポート活動が増加してきている。オンラインでの活動では、画面を通じた間接的な交流であることから情緒的交流に限界はあるものの、物理的な距離にとらわれない長所がある。技術的な負担（特に高齢者ではセッティングの問題）、病院で実施するには個人情報の管理方法を定める必要性があるなど、対面形式にはない課題があるものの、AYAや働く世代を中心に時間や場所にとらわれずに広域から集合することができることから、活用範囲が拡大してきている。拠点病院等や都道府県では、それぞれの長所を活かした支援の場を提供できる可能性がある。そのためにも、オンラインでのピア・サポート活動に関する情報を収集し、その実践を共有する取組みも求められる。

II. 事業総括

表1 意見交換会の実施（研修実施に向けた打合せを含む）

	都道府県	日時、開催場所	参加者
1	神奈川県	2023年 6月5日(月)、WEB	県出席者：2名 委託事業：3名
2	栃木県	6月16日(金)、WEB	県出席者：3名 委託事業：2名
3	埼玉県	6月16日(金)、WEB	県出席者：2名 委託事業：2名
4	群馬県	6月19日(月)、WEB	県出席者：1名 委託事業：2名
5	香川県	7月3日(月)、WEB	県出席者：2名 委託事業：2名
6	福井県	7月14日(金)、福井県庁	県出席者：4名 委託事業：1名
7	山口県	7月31日(月)、WEB	県出席者：1名 委託事業：2名
8	徳島県	8月9日(水)、WEB	県出席者：2名 委託事業：2名
9	鳥取大学医学部 附属病院	9月28日(木)、WEB	病院出席者：3名、委託事業：2名

表2 行政・医療従事者向け勉強会の実施

	都道府県	日時、開催場所	参加者
1	高知県	2024年2月13日(火) WEB	18名 <内訳> ・国指定がん診療連携拠点病院 4施設から7名 ・県指定がん診療連携推進病院 2施設から4名 ・地域統括相談支援センター(がん相談センターこうち) 5名 ・行政 2名

改訂委員会 会議記録

第1回 委員会

日時：2023年8月25日（金） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 開会挨拶
- (2) 今年度の事業方針の確認
- (3) 報告事項：ピア養成研修 WG 報告
- (4) 報告事項：短期サポートグループ WG 報告
- (5) 報告事項：支援希望調査アンケート結果
- (6) 検討事項：都道府県への支援について

第2回 委員会

日時：2023年12月12日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 開会挨拶
- (2) ピア養成研修 WG 報告
 - (ア) 研修会実施報告、準備報告
 - (イ) ピア・サポーター養成テキスト改訂について
 - (ウ) ピア・サポーター養成研修会 開催指針について
- (3) 短期サポートグループ WG 報告
 - (ア) 研修会実施報告、準備報告
 - (イ) 「ピア・サポートの実際」動画作成報告
 - (ウ) がんサポートグループ企画運営者のための研修会 修了者向け半年後アンケートの報告
- (4) 各都道府県の取組に関する報告
- (5) 事業報告書について

第3回 委員会

日時：2024年2月27日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 開会挨拶
- (2) ピア養成研修 WG 報告
 - (ア) 研修会実施報告、準備報告
 - (イ) ピア・サポーター養成テキスト改訂について
- (3) 短期サポートグループ WG 報告
 - (ア) 研修会実施報告、準備報告
- (4) 各都道府県の取組に関する報告
- (5) 事業報告書について